

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2772401432
法人名	有限会社 マナ
事業所名	グループホーム マナ
訪問調査日	平成19年8月31日
評価確定日	平成19年10月10日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2772401432
法人名	有限会社 マナ
事業所名	グループホーム「マナ」
所在地	枚方市茄子作一丁目42-10 (電話)072-854-3787

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査セン		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年8月31日	評価確定日	平成19年10月10日

## 【情報提供票より】19年7月23日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 3 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	人

## (2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨・スレート瓦 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分
------	-------------------------------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,500~50,000 円	その他の経費(月額)	30,500 円	
敷 金	有( 円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		円	月額 40,000円

## (4)利用者の概要(7月23日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2			
要介護3	4 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	76 歳		88 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	東香里病院、寝屋川病院、原整形外科、さくらクリニック、井上歯科
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京阪香里園駅からバスで15分程、住宅街の一角に外観は普通の民家2階建、1階にL・D・K・風呂・トイレ・1居室と事務所、2階に5居室とトイレ、門扉に利用者6人の表札、玄関にかけて種々の花木の鉢植えがある。代表者(管理者)の経験からの熱い思いによる設立と理念、それに共鳴する職員との協働が利用者の穏やかな笑顔に表れているようだ。介護度1・3の身辺自立が可能な利用者と、共に生きる代理家族を標榜する職員との“狭いながらも楽しい我が家”を彷彿させるホームである。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価には、改善の余地なしとあるが、それに甘んじることなく日々の気付きを大事に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	同じようで同じでない日々の暮らしからの気付きを、利用者個々の日々の記録から共有し、職員全員で検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者と家族、包括センター職員、民生委員等による2ヶ月に1度の運営推進会議に、日々の暮らし等を報告して意見や助言を乞うている。会議録の閲覧、検討によりサービスの質の向上に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	頻度の高い家族の訪問時を捉えて、ホーム全体の様子・個々のくらしぶり・健康状態を報告し、月1回発行の「マナだより」で運営推進会議や相談員訪問日、行事予定等を伝えている。苦情やぶつかりあいから生まれるものを大切にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	月に1回の民生委員宅でのお茶会やちかくの保育所の生活発表会に招かれている。住民(S37年からの居住)として馴染みのある管理者が、その職歴からの専門性を活かして地域からの種々の相談に対応して良い関係作りをしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で一人ひとりが個性豊かに心豊かにくらすこと、地域住民との交流の下で社会とかかわりを続ける生活を支えることを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関、居間、台所に掲示して、日々の生活に意識しながら、自分だったら・・・の気付き一つづつを共有して実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者のS37年からの永い居住暦を活かしての日々のご近所付き合いがあり、利用者が月1回の民生委員会宅でのお茶会や保育所の生活発表会などに招待され参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者の家族、その他外部からの意見・助言を聴き、利用者個々の生活記録や気付きを基に、毎朝のミーティングで業務の見直しを図り、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・民生委員・包括センター職員等による運営推進会議を2ヶ月に1回催し、和やかな雰囲気の中での報告、意見交換を行い助言を貰っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者の職歴からの実績や人脈を介しての交流があり、認知症に関する講座への参加(講師として)等も積極的にやっている。3ヶ月に1回のグループホーム連絡会に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来所時(随時の面会や行事参加)に種々の報告をし、行事の案内と報告、職員移動などを月に1回発行の「マナだより」で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回発行の「マナだより」で、運営推進会議や相談員活動日への参加を呼びかけ、玄関にご意見箱を設置している。高齢社会室の相談窓口設置についても案内している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、個々の職員への指導助言とフォローを細やかにいき、協働の信頼関係の築きに配慮している。結果、職員の定着率は良い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝のミーティングや日々の実践の中での指導育成を心がけ、勤務体制のヤリクリで外部研修への参加を奨めている。公的資格へのサポートもあり、介護福祉士や介護支援専門員の資格を取得した職員がいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の個人的な人脈を活かした様々な交流があり、ネットワークづくりが進んでいる模様である。近隣のグループホームとは行事に招待など利用者を含めた交流がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の訪問を受けながらの1週間ほどの仮入居(日/3,000円)で様子を見ることにしている。ほぼ半月ほどの経過で契約をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩との出会いに感謝し、尊敬の念をもって、出あい(愛)ふれあい(愛)学びあい(愛)の心で、共に生きること支えあうことに喜びを感じている。職員の「私の社会の居場所にしたい」の言葉が光る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から利用者の生活歴や利用者への思いなどを書いてもらい、家族の様子も視野に入れながら、日常生活の一つ一つから本人の思いや意向を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人・家族・主治医・デイケア職員(週2回)・職員の意見を反映し、日々のミーティング、毎月のカンファレンスで検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化に対しては、必要に応じた介護計画の見直し、対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週2回のデイケア利用、医療連携体制、通院・入院・退院時の支援を行っている。親戚、友人などの訪問に際し、食事提供や宿泊の支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	6人中5人が、デイケアの医師を主治医としており、通所に際して常時医師・看護師との連携のもと、必要適切な医療と助言を受け、家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じて段階的に本人と家族から意向を聴き、方向性を出している。重度化、急変時、終末期の対応については、同意及び事前指定書等で統一している。その際に示される専門的医学用語等の説明書(管理者作成)は、家族にとっては非常に役立つものである。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ことばかけ、対応には十分に注意が払われ、記録等は慎重に取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節、天候により、利用者の意向に沿いながら日々の生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、何処で食べたり飲んだりするよりも、ホームでのそれらを好み、楽しんでいる。食材については、利用者の体力に合わせて近所で買い物をしている。調理などは、一人ひとりの出来ることに応じた役割分担で行い、楽しい雰囲気です卓を囲み、夫々がマイペースで完食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場は毎朝シャワー浴を行い、希望に応じて夜間入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草花の水遣り、玄関前の清掃、洗濯物干しや片付けなど個人の好みに任されているようだ。月1回のボランティア(男性)来訪での、いろいろな手工芸を楽しんでおり、作品が夫々の居室に飾られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回のデイケアへの外出をはじめ、美容室・買物など利用者の希望にあわせて外出している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、殆ど玄関は開放され、出入りはセンサーで探知して対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練実施には消防署との連携も深めている。(利用者新入の場合は時機を得て)。町内の緊急避難対応表にホームの6人を掲載してもらっている。地域の訓練にはホームより職員一人が参加している。個人用避難リュックも用意する予定でいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別のカロリー表の掲示。水分摂取についての記録は整備され掲示されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅地に位置する居住性を活かした設えがしており、落ち着いた普通の家のくらしがみえる。永年使用の食堂椅子の背に、個々のネーム入り手作りのカヴァーがさりげなく掛けてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夫々の個性が溢れる、清潔感も十分で居心地のよい居室である。		